

暗所視支援眼鏡を販売

伊豆の国 夜盲に悩む患者向け

伊豆の国市田京の「メガネのタニテチ」がこのほど、遺伝性、進行性の難病「網膜色素変性症」などの症状として表れる夜盲に悩む患者向けの暗所視支援眼鏡の取り扱いを始めた。県東部では初。

谷口夏季代表は「患者さんが前向きな気持ちになるきっかけになれば」と期待する。

夜盲は夜間や暗い場所で見えにくくなる視覚障害。明るい場所では普通に見える景色が暗くなると極端に見えにくくなる。

眼鏡は光学機器メーカー「HOYA(フーヤ)」「(東京都)と九州大が共同開発した。暗闇のわずかな光を高

感度カメラで捉えて増幅させ、目の前のディスプレイにカラーで映し出す仕組み。広角レンズに付け替えば、視野狭窄(きょうさく)の症状にも対応できる。

同店は同市の矢田眼科病院(矢田浩 院長)購入前に医療機関に相談する必要性を訴えた



夜盲に悩む患者向けに取り扱いを始めた暗所視支援眼鏡＝伊豆の国市

上で、「今までできなかったことができるようになった」というのが、人生の可能性が広がる」と効果を語った。

1台約40万円と高額のため、全国には日常の取り組みが広がってほしい」と求める。(大仁支局・小沢佐太郎)

助成研究の要旨公開

推進協HP 来月15日まで

伊豆半島シオパーク推進協議会は4月15日まで、本年度の学術研究助成に採択した研究の概要や、学生による研究をまとめたポスターを協議会ホームページで公開している。

助成に採択されたのは静岡大の延原尊義教授ら3人。伊豆半島をフィールドに実施した火山活動による生態系



コメントや質問受け付け

の遷移や堆積物を手がかりにした津波履歴分析などの研究要旨を掲載した。熱海高、菟山高、沼津高専、静岡大の学生によるシオパークや防災をテーマにした研究ポスターも閲覧できる。

7日に予定していた学術研究発表会を新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止したことへの対応。ホームページ上ではウェブカンファレンスとしてコメントや質問ができる。問い合わせは協議会



東日本大震災9年

被災児支援へ有志団体が募金

JR静岡駅 県内を中心にした約

30の有志団体でつくる「311を忘れない！静岡」(小笠原学代表)は11日、東日本大震災で被災した福島県の子どもたちを支援するための募金活動をJR静岡駅北口地下道で行った。

各団体のメンバー約25人が参加し、通行人に支援を呼び掛けた。東京電力福島第1原発事故の影響により、小児甲状腺がんの患者が福島県で増加しているとの主張も紹介した。

浄財は静岡、県と郡内に3ヵ所を置く「静岡」(小笠原学代表)は11日、東日本大震災で被災した福島県の子どもたちを支援するための募金活動をJR静岡駅北口地下道で行った。

各団体のメンバー約25人が参加し、通行人に支援を呼び掛けた。2時46分には地震発生から9年がたつ懸念されるが、難を抱える被災者には「はでできない力」を込めた。

ドリフパックと光る切符第2弾をPRする古郡さん＝富士市内

月3、4日、6月2日に運行する。(富士支局・青島英治)